

大豆「サチユタカ A1 号」におけるシグモイド型被覆尿素 の基肥施肥効果

利用対象：大豆生産者、指導者

背景：

- 現在の主力品種である‘フクユタカ’よりも早期に播種可能（6月中旬から下旬）な‘サチユタカ A1 号’の導入が進められています。
- 大豆の安定多収栽培には、開花期以降の窒素供給が効果的とされていますが、多大な労力を要するため追肥作業が実施されることはほとんどありません。

大豆の多収および省力的栽培を目的に、基肥時にシグモイド型被覆尿素である LPSS100 を施用した時の効果を明らかにしました。

- 本肥料を基肥時に窒素成分で 8kg/10a 施肥した場合、2 年間平均で 21%（62kg/10a）増収。また、4kg/10a 施肥した場合、13%増収（2022 単年度結果）。
- 増収要因としては、莢数の増加及び百粒重の確保。
- 倒伏、青立ちの程度は無追肥の場合と同等。

表 生育、収量調査結果

試験年次	試験区 ^{※1}	生育中の障害 ^{※5}		莢数 ^{※6}		百粒重 ^{※7} (g)
		倒伏 (0-5)	青立 (0-5)	主莢 (莢/本)	分枝 (莢/本)	
2021年度	無追肥	0.1	1.4	30.8	29.0	34.8
	LPSS100-8 ^{※2}	0.1	1.3	29.3	33.1	36.3
2022年度	無追肥	0.0	0.3	21.5	41.4	31.8
	LPSS100-8 ^{※2}	0.0	0.7	26.4	47.7	32.1
	LPSS100-4 ^{※3}	0.0	0.7	27.8	46.7	32.3
	開花期追肥 ^{※4}	0.0	0.7	26.4	48.7	30.6
平均	無追肥	0.1	0.9	26.2	35.2	33.3
	LPSS100-8	0.1	1.0	27.9	40.4	34.2

※1 全試験区基肥 1kg_N/10a 施用
 ※2 LPSS100-8:窒素 8kg/10a 施用
 ※3 LPSS100-4:窒素 4kg/10a 施用
 ※4 開花期追肥:尿素 4kg_N/10a 施用
 ※5 無(0)-甚(5) ※6 20本の平均値
 ※7 水分15%換算



図 坪刈り収量による比較
 ※収量は精子実重(篩目 6.1mm 以上、水分 15%換算)
 ※各バー上の数字は、年度毎の無追肥区に対する追肥区の増加比

活用面および留意点：

- 施肥量については、土壌の肥沃度に応じて決める必要があります。
- 大豆の安定多収生産のためには、施肥法のみではなく、地力維持増進、排水対策、適期防除が必要です。

お問い合わせ先	基盤技術研究室 フード・循環研究課 前田貴文 電話 0598-42-6361
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (三重農研HP)